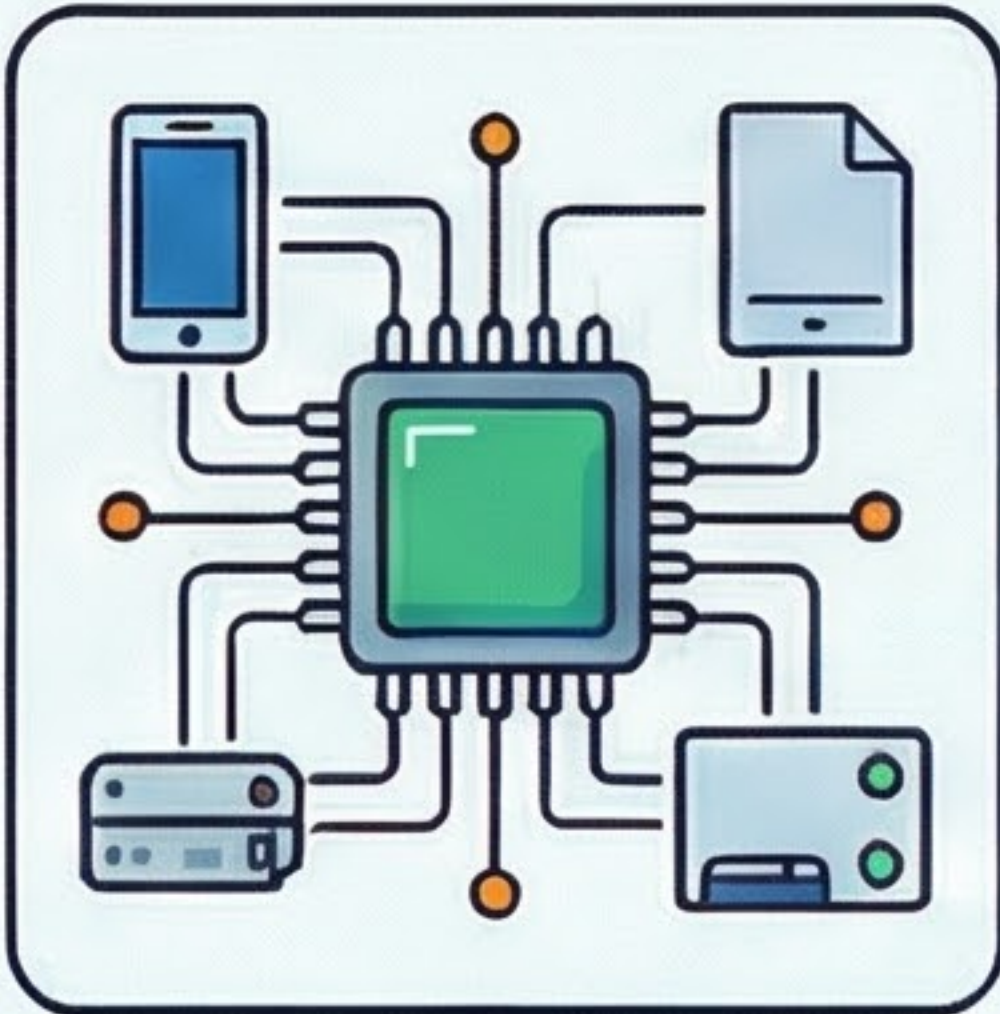


韓国AI知財の最前線：規制と技術革新が拓く未来

AI知財の「ルール」：韓国の法的フレームワーク

AI発明の特許審査フロー：3つの関門



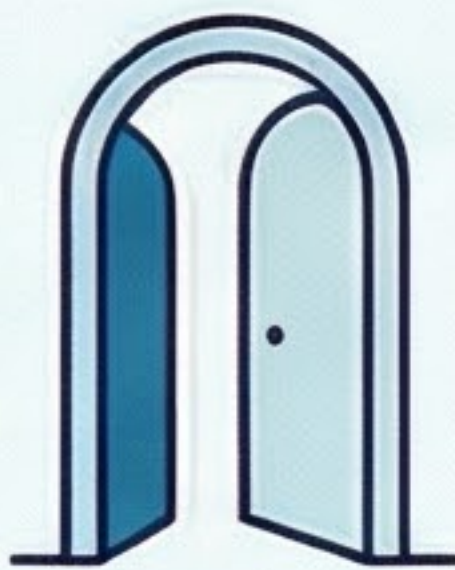
① ハードウェアによる具体化



② 入出力データの相関関係



③ 具体的手段の記載



著作権の原則：AIは「道具」、創作の主体は「人間」



AIが自律生成しただけのコンテンツは保護対象外。「人間による創作的寄与」の証明が権利化の鍵となる。

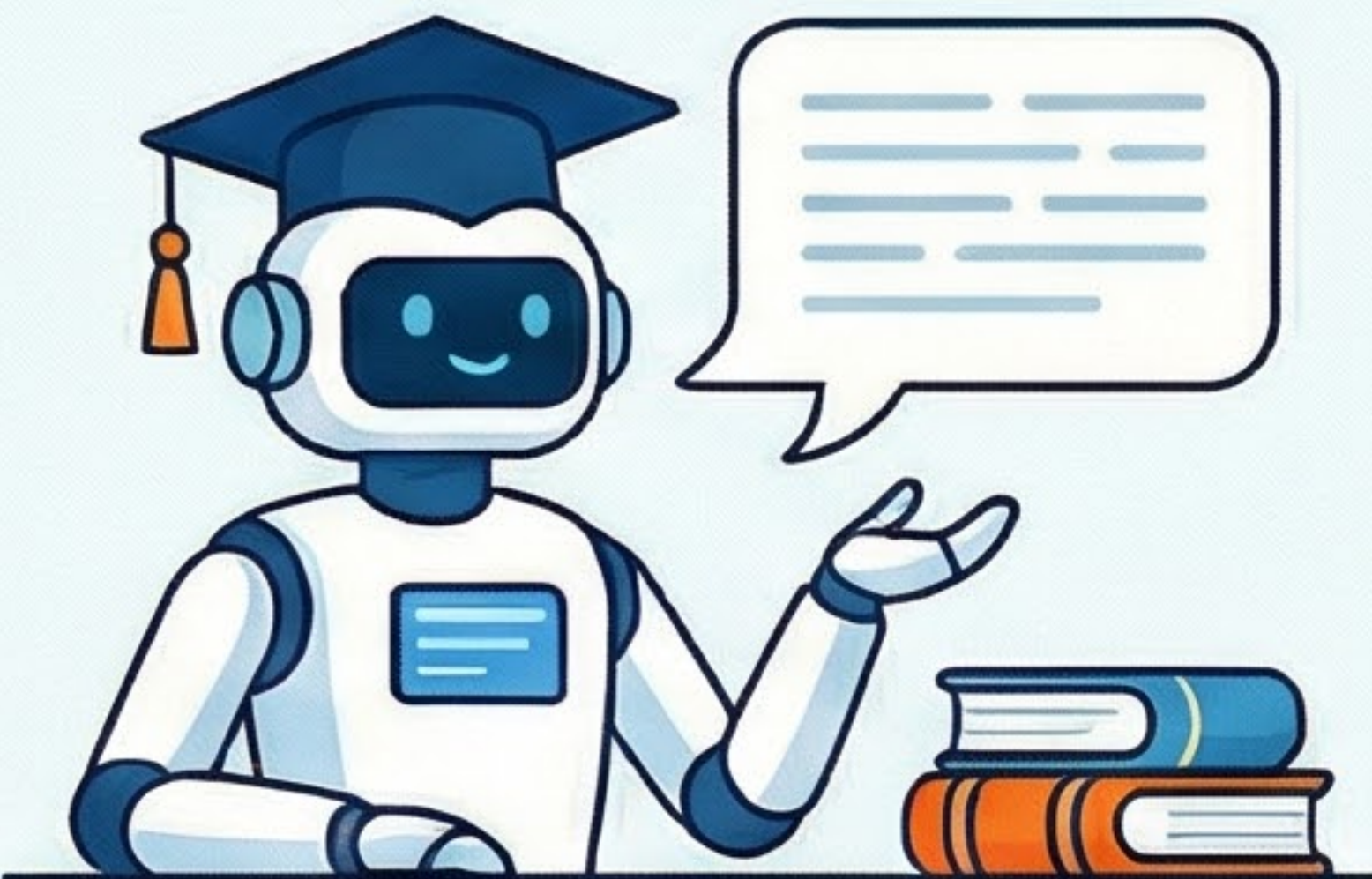
2026年施行「AI基本法」がもたらす透明性



AI生成物には「AI製」であることの表示が義務化され、高リスクAIには厳しい安全確保措置が課される。

AI知財の「ツール」：進化するリーガルテック市場

SuperLawyer：韓国司法試験を突破した法律AI

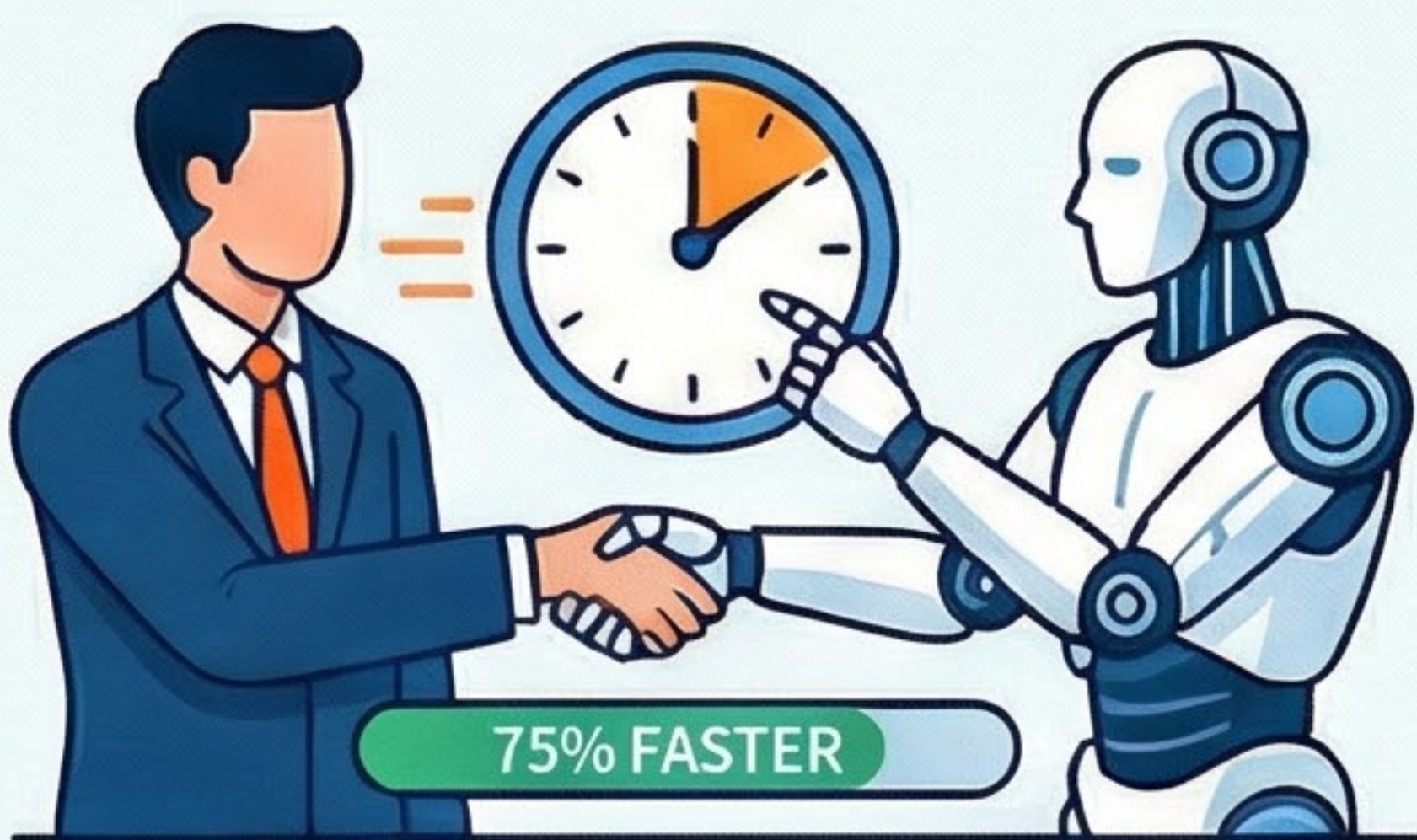


約495万件の判例等を学習し、AI特有の「ハルシネーション（もっともらしい嘘）」を大幅に抑制する。

韓国におけるAI知財の進展

時期	主要な出来事
2020年12月	KIPOが「AI分野審査ガイドライン」を制定
2024年12月	包括的な「AI基本法」が国会を通過
2025年12月	特許明細書作成AI「Patenty.ai」が公式ローンチ

Patenty.ai：特許明細書作成を75%高速化



弁理士の作業をAIが補助。日米欧中韓（IPS）の特許データを学習し、グローバル出願戦略を支援する。